

セミナー通信

V o 1 . 339

西村セミナールーム

主宰 西村 恵子

意地 2022年度卒塾生より

「えっ！なぜ・・・」。中3の1学期の通知表。開いた時、Mちゃんには言葉にならない衝撃が走った。受験に向けて勝負をかけた1学期である。「向陽合格のためにできる限りの内申を取る！」そう決意して臨んだ第1回テストと第2回テストだった。テスト結果はどちらも学年一桁。今までの順位はキープできた。学校生活で毎日やるべきこともやれた。手応えはあった。・・・なのに、通知表の合計は目標に届かない42。9教科中、3教科が「4」だった。ペーパーテストで満点と9割以上を取っても「5」には届かなかった音楽と体育は、いずれも実技点が足りなかったのかと諦めもつくが、納得がいかないのは数学である。第1回と第2回のテストの点数は89点、96点だった。成績に大きなウエイトを占められている日々の小テストも、1学期間全て満点だった。もちろん授業には真剣に参加し、提出レポート等にも一切手を抜いていない。むしろ今まで以上に力を入れていた。“何が足りなかったのだろう・・・”、Mちゃんは“悲しい”とも“くやしい”とも違う、納得のいかなさの中で困惑していた。

実は一番納得していなかったのは私自身である。この年、Mちゃん以外の9人の高蔵寺中3生の第1回、第2回テストの数学の平均点と通知表は以下のようなものだった。96点、94点、93点、91点、90.5点、86点、86点、この7人が「5」、85.5点、79.5点、この2人が「4」。そしてMちゃんは92.5点で「4」である。ぐいぐい前に出るタイプではないが、誰よりも真面目で誠実で一生懸命に取り組む子だ。点数も十分取れている。わからない。後日、数学担任からの説明は、「テストで応用問題ができていなかったのも、基礎とのバランスの面で・・・。」という、意味がよく分からない何とも歯切れの悪いものだった。応用を数問落として90点前半だったり、応用も基礎も間違えて80点台だったりした子達が「5」をもらっていて、1問応用を落としただけで96点だったMちゃんは「4」になった。Mちゃんの心に火が着いた。

2学期はじめの実力テスト。並み居るライバル達を押さえて、英数国の3教科合計順位で学年1位を取った。5教科でも2位。2学期の通知表を決定づける第4回テストの数学の時、応用問題に一瞬手が止まり、とばして先へ行こうかとも思ったが、また「応用が出来ていない。」と言われると思い、踏ん張って意地で解ききり、満点を取った。もうこれで何も言わせない。

いよいよ2学期の通知表、数学も音楽も「5」に上がり、最終内申は44に。入試本番も数学は満点を取り、実力があることを証明して、見事向陽合格を果たした。意地の一徹である。

いつも物静かでおっとりとして、穏やかで優しいMちゃん。めちゃくちゃかっこよかったね！